

世界的歴史学者 朝河貫一博士の2020年記念
書簡展示・講演会 立子山小学校

2020年10月24日(土)

正澄から貫一へ～朝河博士が父から学んだもの～

甚野尚志
(早稲田大学文学学術院教授)

1.朝河貫一博士没後70年記念講演会in立子山

2018年10月13日



2. 二本松から立子山へ一朝河正澄の経歴

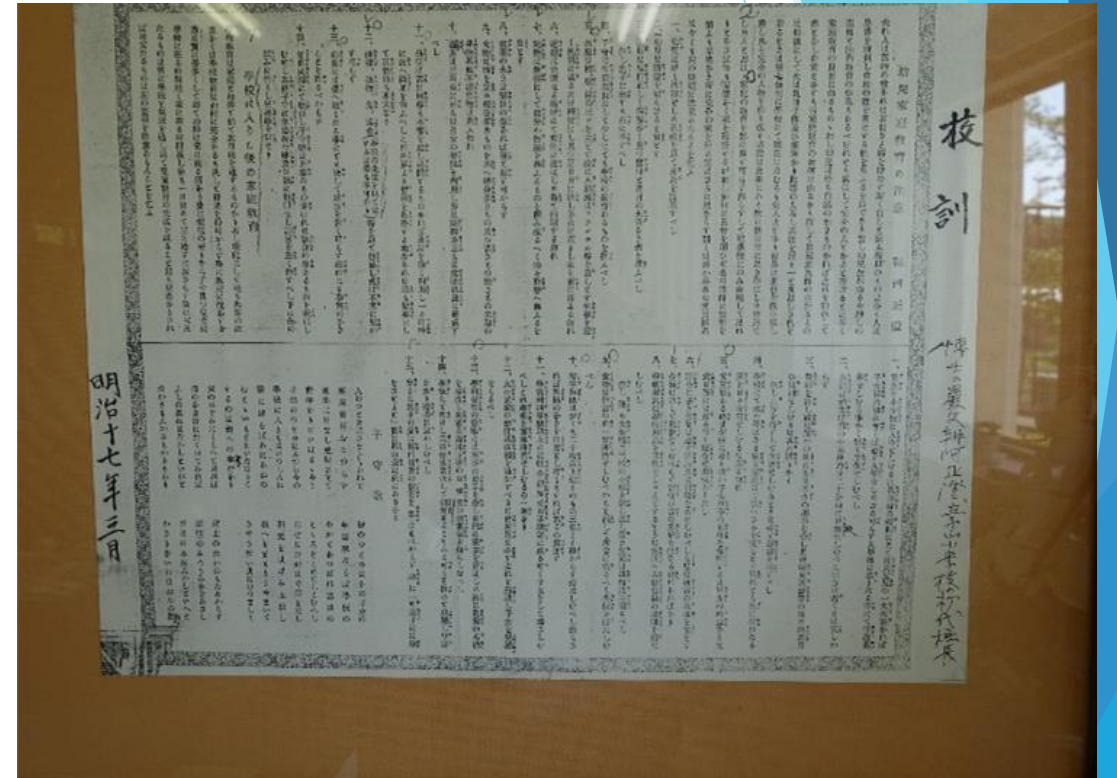
- ▶ 正澄は1844年(弘化元年)、二本松城の北の鉄砲谷で宗像家の息子として生まれる。
- ▶ 宗像幸八郎昌武と称する。修学館で漢学と武技の修練。
- ▶ 1857年(安政4年)、藩の江戸屋敷へ行き滞在。
- ▶ 1861年(文久元年)、砲術師範の朝河照清に師事し砲術を学ぶ。照清の子の照成は、
- ▶ 田口藩士松浦竹之進の長女ウタを娶り、家督を相続。イク、キミが生まれるが、
- ▶ 照成は天狗党の乱で戦死。ウタは未亡人になる。戊辰戦争で照清も戦死。
- ▶ 1869年(明治2年)、宗像幸八郎昌武が婿養子になり、朝河功と改名。
- ▶ 貫一の誕生後、名前を正澄と改名。
- ▶ 1874年(明治7年)7月、伊達郡立子山小学校に赴任。
- ▶ 自身の経歴を『正澄手記』に書く(福島県立図書館蔵)。

- ▶ 参考文献、武田徹・梅田秀男・安西金造・佐藤博幸編『朝河正澄一戊辰戦争、立子山、そして貫一へ』
(朝河貫一博士顕彰協会、2006年)

4. 立子山小学校にある正澄と貫一の写真



写真（左） 小学校の校長室にある写真



写真（右） 正澄が作った校訓

5. 正澄の教育

- ▶ 正澄は博学多識、能筆家、武芸の達人。武士の礼節を守り常に羽織袴を着用し、端座して
- ▶ 容姿を崩すことがなかったので「朝河天神」と呼ばれた。
- ▶ 開校当時、立子山小学校は生徒数60余人だったが、1877年(明治13年)には249人に増える。
- ▶ 小学校は1875年(明治8年)、村の中央の字竹の下19番地に新築。翌年7月に開校式。

- ▶ 正澄は貫一に対し、小学校時代に「近古史談」、「日本外史」、「四書五経」などの
- ▶ 古典を読ませる。それだけでなく、戊辰戦争での二本松少年隊の奮戦や落城、立子山に
- ▶ 残る伝説、二本松の地理沿革、戊辰の戦乱、二本松少年隊の奮戦、落城の様、その後の
- ▶ 苦難を説き聞かせ、貫一の伯母・八重の縁につながる安藤祐助（安積 良斎、昌平黌の儒官）
- ▶ の業績も語り聞かせる。

- ▶ 裁縫に堪能なウタが村の女性に裁縫を教える。農閑期には針子が部屋に溢れるほどであったが、
- ▶ 衰弱して亡くなり、エヒ(梁川の天神社神官の娘)が後妻となる。

6. 正澄の退職と『報恩之辞』

- ▶ 正澄は1874年(明治7年)から立子山小学校長として天正寺住職の円海とともに
- ▶ 教育にあたる。青年指導の夜学会も開催。
- ▶ 正澄は1903年(明治36年)10月に退職。1903年(明治36年)10月20日、朝河校長送別
- ▶ 会の開催。約1300人の立子山村民が参加。立子山村民からの記念品（金側時計）
- ▶ と拠金者による『報恩之辞』の贈呈。

- ▶ 貫一は第一回帰国時1906年(明治39年)2月、二本松に住んでいた父と再会するが、
- ▶ 父は9月に死去。その後、貫一は立子山を訪問。立子山小学校講堂で「朝河博士
- ▶ 帰朝大歓迎会」が開催され、貫一が演説を行う。ダートマスやイエールの大学の
- ▶ 学生について、また日露戦争について語る。

『報恩之辞』の冒頭部分

朝河正澄の小学校長退職に際して
立子山村民が贈った拠金者の名簿
(イェール大学・スターリング
記念図書館所蔵)

報恩之辭

明治三十六年九月我立子山村小學校長
朝河先生以年近六十一朝辭職而去先
生名正澄舊二本松藩士資質坦厚榮利
不足動其心毀譽不能亂其情以終始一
誠不自欺為歸明治七年創立學校於天
正寺延先生為師爾來三十年受教者一
千餘人矣先生當職不辭訓蒙養英隨機
獎導因事啓沃從容不迫相感以誠教育自
此振起年歲之久薰陶之厚孝愛友悌
自被一村村中弟子相語稱先生不問
而知為朝河先生其父兄亦稱先生不
名蓋非入人之德深化人之功至者豈
能如此哉情視今之教員者口雖講道
而心則唯利是規有增俸邀之者則就
焉故朝在某校夕遷某校其視學校如
傳舍視弟子以市道由是師弟不親教
導無効他日弟子視舊師不異於同席
以肩之交甚則若行道之人不曾謀面
者德義掃地倫薄成風師之所授弟子
之所受果何道哉三十年間從事一校
師弟親愛若我朝河先生其人者鮮矣
今者先生挂冠歸鄉生等欲畱不能猶
寒去裘赤子離怙恃茫然不知所為也
乃相與議將立遺愛碑書其功德以慰
我思以俾後人是憲先生聞之峻拒不
許於是更議奉呈金敬測時器一儀以
表微衷匪報也永矢弗諼遂書以為贈
生等稽首再拜

維明治三十六年九月下浣

岩代國伊達郡立子山村

7. 立子山村の優良村表彰

- ▶ 朝倉鉄蔵が1900年(明治33年)4月、立子山村長に就任。村の改良に着手。
- ▶ 伊達郡茂庭村から船尾與一を登用し助役とし、朝河校長と三人で自治の振興、
- ▶ 産業の奨励、経済の立て直しを始める。
- ▶ 朝倉鉄蔵は1903年(明治36年)2月、衆議院議員に立候補して当選。
- ▶ 村長を辞し、その事業は後を継いだ佐藤多三郎、船尾與一の両村長が継承し、
- ▶ 立子山村は、1910年(明治43年)2月25日に選奨29箇町村の一つとなり、内務大臣平田東助の名をもって以下の表彰を受ける。

「福島県伊達郡立子山村 協同輯睦率申テ克ク公共ノ事ニ謁クシ整理経営
共ニ見ルヘキモノ少カラス 今後尚一層ノ奮励ヲ以テ互ニ相協カシ益々其
ノ実績ヲ挙グヘシ 茲ニ金五百円ヲ授与ス」

8. 朝河博士の日記、書簡発見 (福島民報, 2019年12月21日)



- ▶ 2020年1-2月に早稲田大学歴史館での「海を渡ったサムライ～朝河貫一展」で展示。
- ▶ 参考文献
- ▶ 甚野尚志「歴史家・朝河貫一への旅(3)―立子山時代、正澄と貫一―」、『エクフラシス―ヨーロッパ文化研究』(早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所)10号、2020年。

9. 朝河貫一と高橋春吉

- ▶ 高橋春吉(たかはし・はるきち、明治元年生、昭和23年没)は、立子山村に
- ▶ 生まれ、立子山小学校で朝河の5年先輩の親友。
- ▶ 福島市の福島師範学校卒業後、福島県内の小学校校長（飯野町大久保小学校、
- ▶ 石川郡小平小学校、安積郡片平小学校）を歴任し、退職後は立子山村に戻る。
- ▶ 後年、名前を毅（はたす）と改名。朝河の高橋毅宛の書簡も同一人物宛のものである。貫一は春吉に多くの親密な書簡を送った。

- ▶ 孫の高橋秀雄氏が貫一と正澄の関係文書を所有。朝河博士の恋愛手記、書簡、
- ▶ 朝河正澄の書幅を2020年1-2月に早稲田歴史館で展示。